

2016年12月28日

経済レポート

2016年11月の鉱工業生産指数の結果

～11月の鉱工業生産指数は前月比+1.5%の上昇～

調査部 主任研究員 中田一良

11月の鉱工業生産指数の結果

11月の鉱工業生産指数は、前月比+1.5%と上昇し、持ち直していると言える(図表1)。出荷指数は、前月比+0.9%と3か月連続で上昇した。在庫指数は前月比-1.5%と3か月連続で低下した。

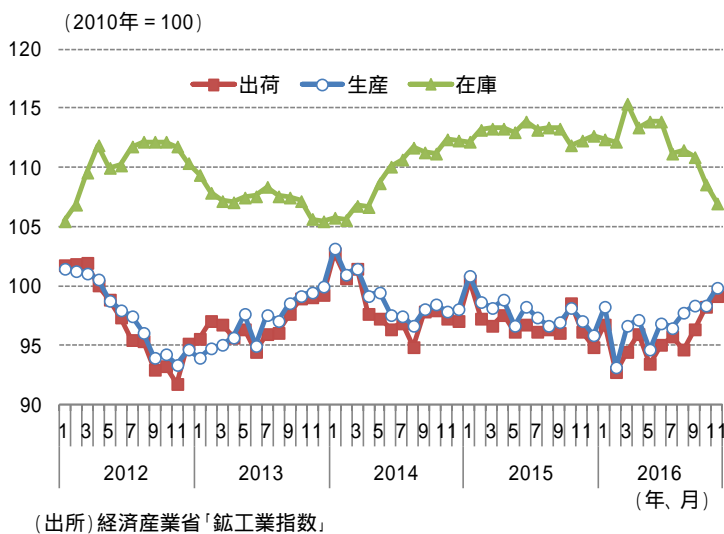
この結果、生産指数は、12月に前月比-5.2%と大きく低下しても、10～12月期は3四半期連続で上昇することになる。3四半期連続での上昇は、2013年1～3月期から2014年1～3月期までの5四半期連続での上昇以来のこととなる。

11月の生産指数の動向を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、電気機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇した(図表2)。はん用・生産用・業務用機械工業では産業ロボット、輸送機械工業では自動車部品、乗用車などの寄与度が大きかった。また、スマートフォン向けのメモリなども引き続き、上昇に寄与した。

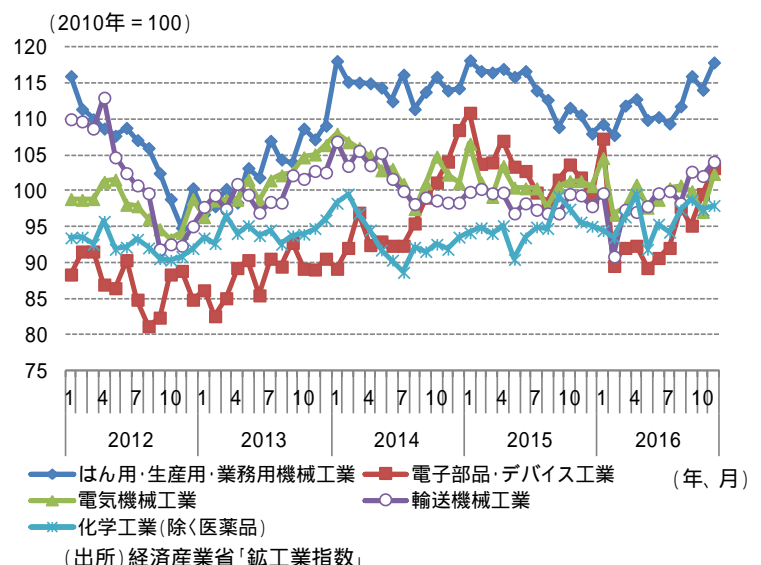
財別では、資本財(除く輸送機械)は前月比+4.0%、耐久消費財は同+2.7%、生産財は同+2.2%と上昇した。他方、建設財は前月比-0.7%、非耐久消費財は同-1.4%と低下した。

低下が続いている在庫指数の動向を業種別にみると、全15業種中、はん用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業を除く13業種で低下した。特に、電子部品・デバイス工業は、前月比-10.5%と大きく低下して、2009年7月以来の低い水準となった。

図表1 生産・出荷・在庫の推移



図表2 業種別の生産動向



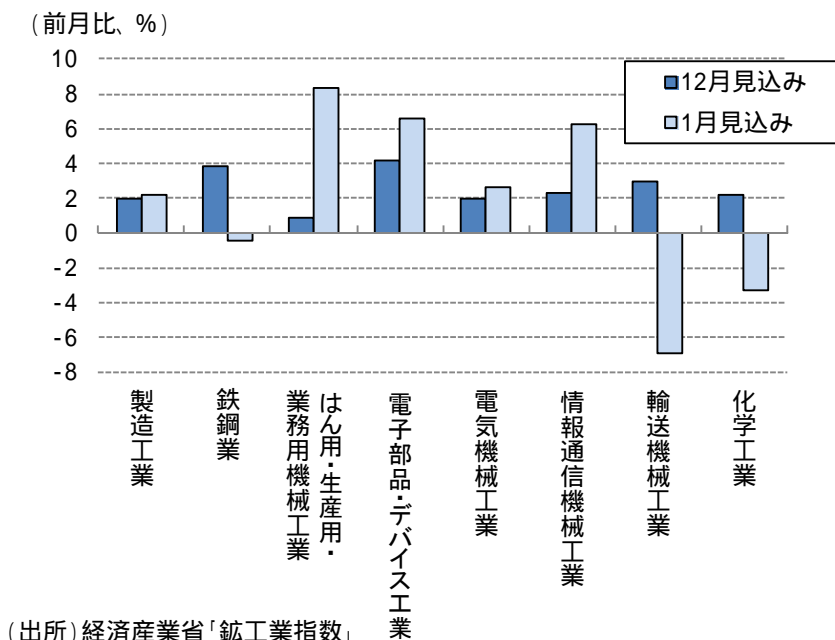
今後の見通し～製造工業生産予測調査の結果

12月の製造工業生産予測調査によると、製造工業は、12月は前月比+2.0%、1月は同+2.2%と上昇が続く見込みとなっている(図表3)。

業種別にみると、12月はすべての業種で上昇する見込みとなっている。中でも、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業、輸送機械工業などは比較的高い伸びとなっている。1月は、はん用・生産用・業務用機械工業、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業、電気機械工業などは上昇が続く一方、輸送機械工業、化学工業、鉄鋼業などは低下する見込みとなっており、業種によって異なる動向となっている。

はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、情報通信機械工業などの実績は予測を下回る傾向がみられることから、12月の製造工業全体の上昇率は、予測調査の結果を下回ると予想される。

図表3 製造工業生産予測調査による見込み(主な業種)



ご利用に際して

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。